

～輝く瞳よ永遠に いま開こう未来への扉～

# 宮崎県立福島高等学校は 創立90周年を迎えました

校庭に立ち並ぶケヤキたち  
90年という長い歳月  
ともに時代を過ごし  
ともに青春を謳歌し  
ともに成長しながら  
私たちを見守り続けています

私たちの母校  
たくさんの思い出が  
詰まっています



**100歳の初夢**  
國府セツさん（101歳）  
（昭和2年卒）

私は福島高等女学校の3回生です。入学式のときにはまだ校舎が完成しておらず、作業の手伝いをしていました。ケヤキの木が植えられたときのことも、女学校時代の校歌も、今でも鮮明に覚えています。不思議なことに、100歳のときの初夢が、なんと母校の卒業式でした。当時の高島校長先生が「皆さんの力を串間のために尽くしてくれることを望んでいます」とおっしゃっていました。私もこれからの福島高校にそれを望んでいます。がんばってください。



**同級生の絆**  
37ケヤキ会の皆さん  
（昭和37年卒）

忘れもしない昭和34年7月20日、本校舎と講堂が全焼する火災が起きたとき私たちは高校1年生でした。夏休みは奉仕作業で勉強どころではありません。寄宿舎でぎゅうぎゅう詰めになりながら、みんなで1年間授業を受けました。当時は貧しい暮らしで、今思い出しても涙が出るほどです。しかし、あの時代を共に過ごしてきた同級生だからこそ、私たちの『絆』はとても深いです。現在は月に1回、グランドゴルフをするほど仲良し。福島高校と一緒に過ごした仲間と今でも楽しく過ごしています。



**息子と同じ校歌を**  
深江ちかえさん（63歳）  
（昭和43年卒）

主人が転勤族だったため、串間を離れていましたが、約20年前に串間に帰ってきました。息子が自分と同じ福島高校に通える、同じ校歌を歌えるのが、すごくうれしくて。それに息子の入学時の教務主任が、私の福高時代の担任の先生だったんです。なんだかもう感激してしまいました。ケヤキをクラスの窓から眺めるのが大好きでした。今でも職場に向かう途中に眺めては、四季折々の姿を感じています。



**先生との思い出**  
前門充徒さん（19歳）  
（平成25年卒）

私が在学中に一番印象に残っているのは、やはり先生との思い出です。3年生のとき就職が早く決まった私は、学校に行く意味を見失ってしまっていました。そんな私をちゃんと叱ってくれた先生。私の心の奥にまで踏み込んでくれた先生。そういう先生と生徒との関係って、小さな学校ならではの良さだと思います。在校生の皆さん。先生や友人とたくさん話して、色々な意見を聞きながら、芯を持った大人になってください。

- 沿革**
- 大正12年3月
    - ・福島村・大東村・北方村・本城村・都井村組合立宮崎県福島高等女学校認可
  - 昭和18年12月
    - ・宮崎県立福島高等学校と改称
  - 23年4月
    - ・学制改革により宮崎県立福島高等学校開設
  - 25年4月
    - ・全日制に農業科（農業）と家庭科（被服）の課程を設置
  - 34年7月
    - ・火災により本校舎および講堂全焼
  - 51年8月
    - ・第58回全国高等学校硬式野球選手権大会（甲子園）出場
  - 53年2月
    - ・ケヤキ群が串間市指定天然記念物に指定される
  - 平成4年5月
    - ・全日本学校関係コンクール学校環境緑化の部準特選表彰
  - 15年4月
    - ・宮崎県高等学校競技力強化推進校指定（レスリング）
  - 16年4月
    - ・全日制商業科募集停止 第1学年定員120名普通科3学級
  - 20年3月
    - ・第一体育館取壊工事完了
  - 20年4月
    - ・串間市小中高一貫教育開始
  - 21年4月
    - ・45分授業および放課後講座制（けやきタイム）導入
  - 22年4月
    - ・県立高等学校キャリア教育総合推進事業「普通科高校におけるキャリア教育推進校」指定＊3年事業
  - 23年7月
    - ・教室棟空調整備完成

